

QRバンド、迷子防ぐ

名前・連絡先簡単チェック

オプトエレクトロニクスなど4社は、子供の名前や親の連絡先をQRコードを使い表示するリストバンド型の迷子防止札を開発した。産業技術総合研究所の開放特許を利用しており、一般社団法人さいしんコラボ産学官による開放特許活用支援の最初の事例になる。QRコードを子供が楽しめるイラスト入りで遊園地向けに販売する。



QRコードを読み取るとアプリやパソコンの画面に子どもの名前や親の連絡先などを表示する

オプトエレなど 開放特許を活用

迷子防止の新商品「おまわりQR」は、QRコード付きリストバンドを子供の身につけて使う。施設の入り口などで子供の名前や親の携帯番号といった連絡のための情報を登録。暗号化した情報が入ったQRコードを読み取り機などでチェックすると連絡先などが分かる仕組みだ。

バーコード読み取り装置メーカーのオプトエレクトロニクスのほか、システムソフト開発のグロバルソフトウェア（埼玉県本庄市）、印刷デザイン（同県鹿嶋市）、産総研の開放特許の実施許諾を持つソフト開発のフルリンクシステムズ（東京・千代田）が共同で開発した。

料金はパソコンなどで情報を確認するソフトウェアなどのシステムの初期費用が10万円台から。

これとは別に読み取り機が3万円からある。リースの場合は台数や機種にもよるが、月額1000円からを想定している。

迷子防止だけでなく、スタンプラリーなどにも応用できる。数カ所に設置した読み取り機にQRコードをかざすとポイントがたまるといった使い方ができる。

QRコードは産総研が持つ2次元コード作成の特許技術を活用した。コードにドットで描くイラストを入れても情報を正しく読み取れる。開発した4社は「動物など好きなキャラクターを入れれば、子供が楽しくバンドを選べるようになる」とみている。

さいしんコラボ産学官

地元企業に商品開発促す

「おまわりQR」は一般社団法人さいしんコラボ産学官の開放特許の活用支援で初めての事業化案件になる。同法人は2016年から特許庁が派遣する「開放特許の活用や事業プロデューサー」を受け、今後技術力のある地元企業を集めて商品開発を促していく考えだ。

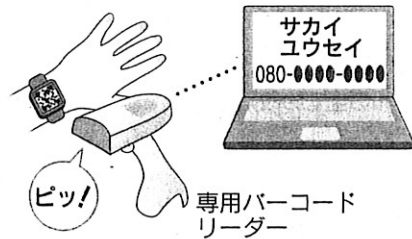
おまわりQRのアイデアは産総研などの研究機関や大企業が持つ特許を使ったビジネスコンテストで埼玉大学経済学部の実生らが提案した。オプトエレクトロニクスの担当者は「開放特許の活用や事業プロデューサー」の活用や事業プロデューサーによるマッチングで商品化が早くなった。2020年の東京五輪・パラリンピックの会場でも使ってもらいたい」と話す。

迷子防止へQRバンド

- 1 受付で名前などを登録し、QRコード付きリストバンド作成



- 2 迷子時にリストバンドのQRコードを読み取る



- 3 親に連絡



2017年6月22日(木)
日本経済新聞社(朝刊)
使用許諾番号:0201304